# 大手前新聞

創刊
2018年(平成30年)
佐伯市役所
大手前開発推進室
☎0972-22-4623

## 身近な施設

現在建設中のさいき城山桜ホールは、多彩な機能を備えた大・小ホールを始めスタジオや会議室、食育や子育ての支援室、市民団体が活動を行えるスペースなど、様々な機能を備えた複合施設です。

館内には自由に利用できるフリースペースがありますので、憩いの空間としての利用や、仲間との談笑の場など、どなたでも気軽に利用できます。

完成予想図

## 多機能空間

市では、様々な人々が交流する拠点、文化・芸術・情報発信の拠点、歴史と賑わいのあるまちを目標に大手前開発事業を進めています。

当事業では、バス停留所、タクシー乗り場を含む新設道路、市営大手前駐車場を整備し、公共交通をエリア西側に集約することにより歩行者の安全を確保し、施設や広場の一体的な利用が可能となります。

これから２０２０年秋のさいき城山桜ホール開館まで、管理・運営実施計画を念頭に置き、プレイベントなどを実施しながら利用者が活動しやすい施設運営を目指します。

完成予想図

## 市民の想いをかたちに

平成25年 市民会議の様子

大手前開発基本計画の策定にあたっては、市民公募により集まった「大手前開発市民会議」と学識経験者等による「大手前開発基本計画協議会」の２つの組織からの提案をもとに策定しました。

## あの頃、この街

昭和40年代、大手前は公共施設が集積し、寿屋を中心に周辺商店街が形成され、買い物客による賑わいを創出していました。しかし、時代の移り変わりとともに、人口の減少や高齢化によるコミュニティの弱体化、車社会への転換・進展による購買力の流出や商業店舗郊外化などにより、中心市街地はかつての魅力を失い、衰退へと向かっていきました。

昭和47年 寿屋開店時の様子

## 育む活動 繋がる心

船頭町を歩いてめぐってたのしむ異日常な一日

船頭マチイチ
SENDO MACHI-ICHI

開催日　2019年2月17日（SUN）
じかん　10：00～15：00
ところ　佐伯市船頭町界隈

Vol.6 2019 WINTER

船頭町では、まちを歩いて巡って楽しむキッカケづくりとして「船頭マチイチ」を実施しています。平成29年秋から今回で第６回目となりますが、回を重ねるごとに来場者も増え、開催を心待ちにしている方も多いようです。

今後、大手前の活動と周辺の活動が絡み合い、広く繋がっていくまちづくりを期待しています。

## さいき城山桜ホール シンボルマークデザイン募集

◆応募期限
平成３１年２月１４日（木）１７時 必着

◆賞品
賞金１０万円と開館記念イベントの無料招待券

応募用紙は、市役所本庁総合案内、各振興局・出張所に置いています。また、市ホームページからもダウンロードできます。

応募条件など詳細は、応募用紙に添付の要領及び市ホームページでご確認ください。

## 佐伯がいちばん！

私が初めて佐伯に赴任した平成７年頃の大手前地区は、すでに少し寂しくなってきたと言われていましたが、幼い子供たちを連れて文化会館で映画を見て、寿屋の屋上遊園地で遊び、商店街の七夕の飾り付けを見ながら夕飯の買い物をして家路につくといった、見る、聞く、学ぶ、遊ぶ、憩う、食べる、買うなど様々な生活の要素があふれる場であり、新たな経験や発見が期待できる特別な場所でもありました。

佐伯市が進める「都市再生整備計画事業」では、市民の有識者など様々な方々の意見を伺いながら、多様な可能性を持ち、外見的にも新しい「まち空間の創造」を進める一方で、経済、文化、交通環境など、市民生活の基本的な要素を複合的に再構築することで「まちづくり」を一体的に進めようと真剣に取り組まれています。

今後、現在建設が進められている「さいき城山桜ホール」を中心とした新しい大手前のまち空間が、再び多くの市民に愛され、活用されることで、市民生活の大きな要素として佐伯市の「まちづくり」の拠点となることを大いに期待しています。

大分県佐伯土木事務所
所長　渡辺　輝光